



11 期 卒業いたしました！

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。本日無事に東京都立葛飾総合高等学校を旅立つ若者たちの背中を見送る中で思った保護者の方々への感謝の言葉を、11期通信最終号の言葉とさせていただきます。

3年間頑張ってきた11期生なのに、このような形の卒業式となり、正直残念な気持ちもあります。しかし、答辞にもあるように、これからの長い人生を素敵に生きること、この大変な卒業式でさえ、いい思い出にできるのではないでしょう。



本日の卒業式は、寒い雨の中、通常より縮小された形で行われました。しかし、式中は厳粛に、式後は賑やかな笑顔で、11期生は卒業していきました。卒業式会場から笑顔で退場する彼らの背中を、

担任は6人で見守っていました。若者が素敵に成長し旅立っていく。「飛べ！愛しい鳥たちよ、羽ばたいて行け。」などと思いながら。見送る我々も、「転石苔むさず」の精神で11期生に負けないように頑張ります。そんな私たちの年次運営をご理解いただき、ご支援賜りました保護者の皆様に、感謝の気持ちでいっぱいです。

長い人生の旅路の途中駅を通過した11期生。「道に幸あれ」と、いつまでも祈り続けております。

令和2年3月14日

東京都立葛飾総合高等学校

11期担任 山田純弥 仲野谷みか 伊藤拓昭
岸野友子 市毛研祐 澁谷直孝

11 期 学事報告 (11 期生 3 年間の歩み)

平成 29 年度

4 月 7 日 入学式 (11 期生入学)
237 名 (男 79 名, 女 158 名)
4 月 26～28 日 葛飾アントレ
(山梨県河口湖)
5 月 12 日 体育祭
6 月 15, 16 日 宿泊防災訓練
9 月 23, 24 日 葛希祭 (文化祭)
11 月 8 日 芸術鑑賞教室
(ミュージカル:「アラジン」)
2 月 20 日 合唱コンクール
3 月 15, 16 日 葛飾総体
3 月 19, 20 日 学習成果発表会

平成 30 年度

4 月 13 日 校外学習
(羽田空港集合→企業・施設訪問)
5 月 16 日 体育祭
6 月 19 日 芸術鑑賞教室
(オペラ:「魔笛」)
9 月 29, 30 日 葛希祭
2 月 5～8 日 修学旅行
(長崎・福岡)
2 月 19 日 合唱コンクール
3 月 15, 18 日 葛飾総体
3 月 19, 20 日 学習成果発表会

令和元年度

4 月 19 日 進路ガイダンス
(面接大会)
5 月 17 日 体育祭
6 月 18 日 芸術鑑賞教室
(歌舞伎:「神霊矢口渡」)
9 月 13 日 課題研究発表会
9 月 28, 29 日 葛希祭
3 月 14 日 卒業式
222 名 (男 74 名, 女 148 名)

■ 第11回卒業式 答辞

やわらかな風と日差しに包まれ、例年より早く咲き始めた桜に祝福されるかのように、私たち 11 期 222 名はここ、葛飾総合高校を卒業します。たくさんのご来賓、保護者の皆様にご臨席いただき、このような盛大な卒業式ができたことを卒業生代表として、厚く御礼申し上げます。そう挨拶してこの答辞を始める予定でした。しかし私たちの卒業式は、今までと全く違う形になってしまいました。本当なら、お母さんやお父さん、後輩たちに見守られながらこの式を迎えたかったのですが、世界中を襲う感染症の影響の中、この卒業式ができることだけでも感謝して、私たちは今日、呼名を受けました。先生方にはこの状況の中、卒業式の準備等をしてくださったことを、卒業生代表として、厚く御礼申し上げます。

3 年前、今と同じこの場所で迎えた入学式。真新しい制服に身を包み、期待と不安が入り混じる中、私たち 11 期生は葛飾総合高校に入学し、葛総生となりました。私は期待よりも不安の方が大きく、これからこの学校での仲間たちと 3 年間うまく過ごせるだろうかと思っていました。しかし、その不安はすぐに打ち消されました。クラスメイトと打ち解け、趣味がきっかけとなった出会いなどもあり、たくさん友達ができました。とはいえ、四月に行ったアントレでは不安な気持ちが大きかったです。1 度も話したことの無い人と同じ班になり、学習活動や研修先でのインタビューを行いました。仲間とともにしっかり準備をしたつもりでしたが、今思えば、まだどこか残る私達のプレゼンだったと思います。このアントレで葛飾総合高校の特徴であるプレゼンやコミュニケーションの練習を初めて経験しました。私は、「葛総生になったんだな」と、実感しました。そして、一年次の体育祭、葛希祭、合唱コンクール、葛総体、科目登録。当然ながら初めてのことばかりで、戸惑い、若かった私たちを覚えています。

二年次生になり、学校での生活も慣れ始め次第に緩みも出て先生方に叱られてしまったりもしました。しかし一方で様々な行事や部活動などで中心的な存在となり、それぞれの力を発揮できた思い出も多いのではないのでしょうか。CC の授業も専攻ごとに分かれ、進路も意識しながら課題研究を頑張りました。葛希祭では各クラスが様々な模擬店を担当しました。そして 2 月に行った九州への修学旅行は大きな思い出です。インタビューや研究のまとめはかなり難しく、友達にアドバイスをもらいながらまとめました。ハウステンボスのアトラクションを存分に楽しんだり、ホテルのビュッフェではスイーツを食べ過ぎてしまったり、お土産を買いすぎてしまったりと、たくさんのことを思い出します。

そして 1 番大変で、でも 1 番充実したのはやはり 3 年次です。毎日、課題研究論文や受験など、それぞれの目標に全力を尽くしました。だからこそ、最も多くの思い出が残った 1 年間だったと思います。全ての行事で 3 年次生が主体となって動いていくため、忙しい毎日を過ごした人もたくさんいたでしょう。体育祭、葛希祭のために毎日のように居残りをし、並行して受験の対策をしたりして、本当に大変でした。

私も今までに経験した事のないくらいの忙しさで、この 1 年が本当にあっという間でした。被服専攻だった私は、葛希祭でのファッションショーの準備と受験の準備が重なり、夏休み中や 9 月は、毎日が目まぐるしく過ぎていきました。やらなければならない事が山ほどあり、時にくじけそうになったりしながら、何とか必死に課題に取り組んでいました。しかし今思えば、もっと出来ることはあったような気もするし、結局人に任せていたなと悔いが残っている部分もあります。全力で挑んでいても、どうしても自分ひとりでは補えない部分があったのは事実です。でも、そんな時に支えてくれたのは、専攻のみんなや友達でした。「大丈夫だよ。一緒に頑張ろう。」と言ってきて、共に悩んで共に笑って、そんなみんながいてくれたことは本当に嬉しかったです。葛希祭のファッションショーは大成功に終わり、本当に良い経験になり、私の将来の夢にも、一歩近づけたのではないかと思います。

また、私が頑張ってきたのは弓道部の活動と広報ガイドです。1 年次生の頃は先輩に教えていただいたことを

指示通りに行くことしかできませんでした。しかし次第に、後輩の指導をしたり、昇段試験に合格できるようになりました。広報ガイドの仕事は、いつでも楽しくて大好きでした。見学に来る中学生やその保護者の方々と話すのは、やりがいもありとても楽しかったです。仲間たちや後輩たちと説明会を運営やその為の準備をしている時間は楽しいだけでなく、葛総力を身につけられた時間だったと思っています。

そんな私たちを、担任の先生方はいつも厳しく時に優しく見守ってくれました。遅刻が増えたりしている 11 期生に最後まで指導していた山純先生、アントレの忘れ物から最後の頭髮指導まで生活指導をされてきた仲野谷先生、厳しいふりしていつも生徒の相談にのってくれる優しい伊藤先生、天然キャラで D 組さんを和ませていた岸野先生、オポチュニティーを合言葉に課題研究を見守ってくれた市毛先生、そして 11 期生のお父さん、澁谷先生。

そんな先生方に、「甘えるな、楽なほうに逃げるな」と何度も言われ、時にはうるさいと思った人もいたかもしれません。でも、その指導は、将来私たちが間違えた道に進まないようにしてくれる、道しるべだったと感じます。でも卒業したらもう言われることもなくなってしまうと思います。今後迷う場面があったら、先生たちならなんて言うか、自分の力で考えてみたいと思います。担任の先生方、教職員の皆様、本当にありがとうございました。

たくさんの先生方に見守られ、様々な行事を駆け抜けてきた 3 年間。でも、たくさんの行事より私にとって最も大切なことがあります。それは大好きな 11 期の仲間と過ごした、なんでもないような「普通の毎日」です。自転車に乗って学校まで走り葛総につき、おはようと挨拶を交わす。普通の毎日のおかげで、私は全力になれたんだと思います。何事にも全力で取り組むことができ、競い合ったり、悩んだり、辛い時に背中を押してくれるのは、仲間たちでした。みんなで集まって食べたお弁当はおいしかったし楽しかった。盛り上がった会話は私の葛総での生活の最高の思い出です。放課後教室に残って、友達や先生と他愛ない話をしたりもしました。嬉しい時に笑って、時に傷ついても同じ気持ちを分かち合えた仲間と過ごした毎日。普通の毎日がかわっていくことは、本当にさみしいことです。

大事なことは明日からの新しい普通の毎日の中で、それぞれが素敵に輝くことですよね。その輝きが、葛総での日々を、もっと美しい思い出にするのだと思います。皆さんには目指している場所があると思います。葛総での思い出を胸に、その目標へ全力で走り抜けてください。

その普通の毎日を支えてくれたお母さんお父さん。この場で感謝を伝えられないことはとても残念です。私たちがこの制服を着る最後の姿を見せたかったし、一緒に親子で写真も撮りたかった。感謝の気持ちは家で伝えますが、泣いてしまわないか心配です。

この答辞が終わり、校歌斉唱が終われば、いよいよほんとに卒業です。山田泰之先生の伴奏で歌う、最後の葛総の校歌。葛総での思い出を巡らせ、私たちとここにいるみんなの未来が明るくなるように、願いを込めて、歩き出し、心をつなぎ、誓いあい、羽ばたいていけるよう、笑顔で歌いましょう。11 期の仲間たちで。

令和 2 年 3 月 14 日
卒業生代表 岡本南美